

宜野湾市地域公共交通計画

計画策定に向けた調査・検討の進め方

1. 宜野湾市地域公共交通計画について
 - 1 – 1. 地域公共交通計画の概要、策定の背景・目的
2. 現状に対する課題認識
 - 2 – 1. 宜野湾市が目指す都市構造
 - 2 – 2. 宜野湾市の公共交通を取り巻く課題
3. 調査・検討の進め方
 - 3 – 1. 検討フロー
 - 3 – 2. 公共交通に関する現況整理
 - 3 – 3. 市民等の意向把握調査
 - 3 – 4. 地域公共交通を取り巻く問題点・課題
 - 3 – 5. 周辺市町村連携検討会議
 - 3 – 6. 宜野湾市地域公共交通推進協議会

令和4年9月28日(水)
宜野湾市地域公共交通推進協議会

1. 宜野湾市地域公共交通計画について

1-1. 地域公共交通計画の概要、策定の背景・目的

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律

地域旅客運送サービスの確保に資するよう、地域公共交通に関する計画や様々な事業に関する措置について定め、地域公共交通の活性化及び再生のための地域の主体的な取組等を推進する法律

R2改正のポイント：地域の移動ニーズに合わせて、地域が自らデザインする交通へ

- 「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにする、**地域公共交通のマスターplan**
- まちづくり・観光振興等の**地域戦略との一体性**の確保
- 原則全ての地方公共団体において作成が必要(**努力義務化**)
- 活性化再生法に基づく**法定協議会**(地方公共団体・交通事業者・道路管理者・利用者・学識者等から構成)を開催し作成
- 従来の公共交通サービスに加え、地域の多様な輸送資源（自家用有償旅客運送、福祉輸送、スクールバス等）を計画に位置付け、地域の移動ニーズにきめ細やかに対応（**地域における輸送資源の総動員**）。
- 基本の方針、区域、**定量的な目標（利用者数、収支、行政負担額等）**、各事業及び実施主体、**評価手法**等を明示



【地域公共交通計画策定の背景・目的】

- 地域公共交通は暮らしを支える社会基盤施設の一つです。沖縄県内の路線バス利用者は自家用車の普及等により減少傾向が続き、近年は下げ止まりで推移していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあって再び減少基調にあります。こうした中、超高齢社会を迎える現在、**公共交通空白域にお住いの方や移動手段を持たない市民**及び**運転免許返納**をする上で必要な受け皿として、**移動手段の確保、維持**がこれまで以上に求められています。
- 一方、本市は、普天間飛行場を取り囲むように中南部都市圏の発展軸である国道58号、国道330号が配置されたことで急速に市街化が進展しました。それにより、普天間飛行場の周りを幹線道路網や密度の高い市街地が取り囲み、**不健全で非効率な都市構造**となっております。
- 誰もが住みやすく安全・快適で持続的発展が可能なまちづくりに取組むためには、**公共交通網の維持充実を図る**とともに、**自動車から公共交通への利用転換を促進**する必要があります。そのため、地域交通に関するマスターplanとなる「宜野湾市地域公共交通計画」の策定に着手します。

2. 現状に対する課題認識

本市の公共交通に関する課題を「**交通渋滞**」「**ニーズとサービスのギャップ**」「**交通弱者**」「**今後のまちづくり**」「**周辺市町村との行き来**」「**公共交通の維持・活性化**」「**観光客**」という視点から捉えることを想定しています。

- **課題の視点として不足**があればご意見ください。
- 今後、調査含め各種データを分析し、課題を精査していく予定です。分析の参考とさせていただきたいので、普段の業務や生活を送るうえで感じている**交通に関する問題点（困りごと）**等があればお聞かせください。

2-1. 宜野湾市が目指す都市構造

- 宜野湾市都市計画マスタープラン（R3.12改定）では、「未来を育む ねたてのまち 宜野湾～魅力ある暮らしにぎわいあふれる 交流共生都市～」を将来像に、短期・中期の将来都市構造として「拠点機能の維持・充実と拠点連携・循環型都市構造の強化」を目指すこととしています。
- 本計画においても、この将来像をベースにしながら、公共交通サービスの質を高めていくこと、そして交通渋滞を解消していくことを念頭に進めていきます。

将来都市構造（短期・中期目標）

拠点機能の維持・充実と 拠点連携・循環型都市構造の強化

[拠点]

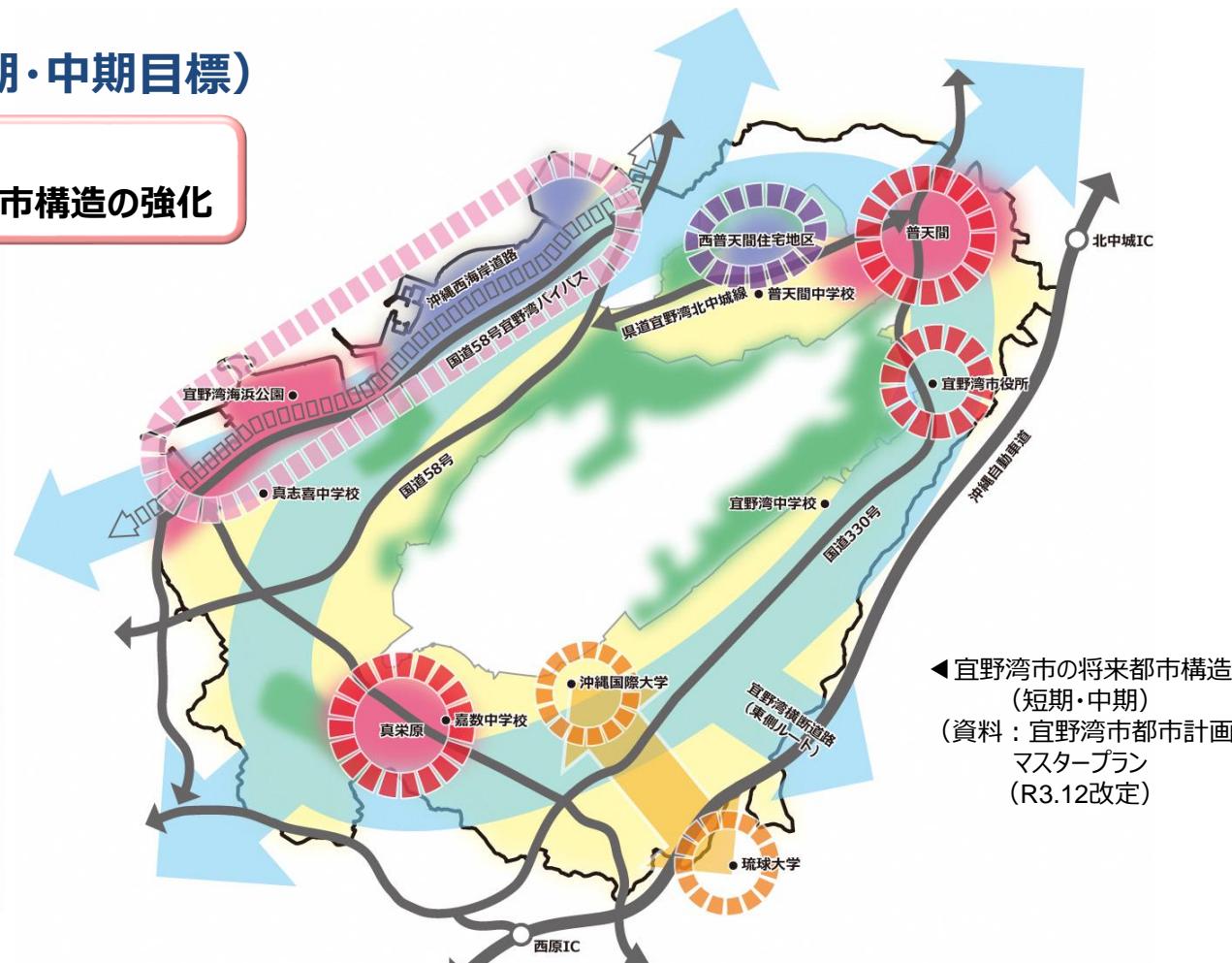
- 交流・サービス拠点
- 沖縄健康医療拠点
- 国際学園都市拠点
- コンベンション・リゾート拠点

[軸]

- 都市軸
- 国際学園都市軸

[ゾーン]

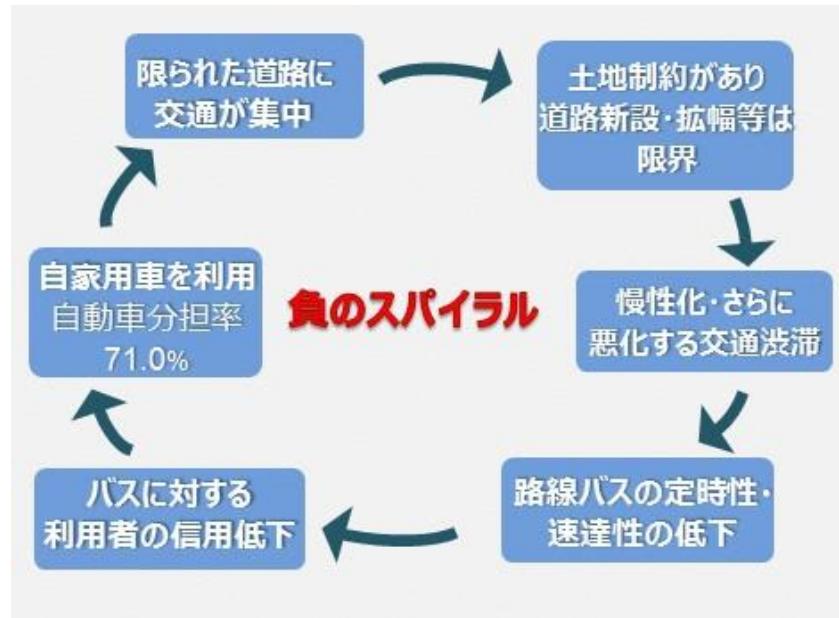
- 商業ゾーン
- 市街地ゾーン
- 産業ゾーン
- みどりのゾーン



2-2. 宜野湾市の公共交通を取り巻く課題

課題①

慢性化、さらに悪化する交通渋滞と
公共交通利便性の低下の負のスパイラル



▲自家用車依存と交通渋滞とバスサービスの低下の負のスパイラルイメージ

●市民が利用しやすい公共交通の環境づくり

課題②

東西方向の移動ニーズと南北軸方向の
バス路線とのギャップ



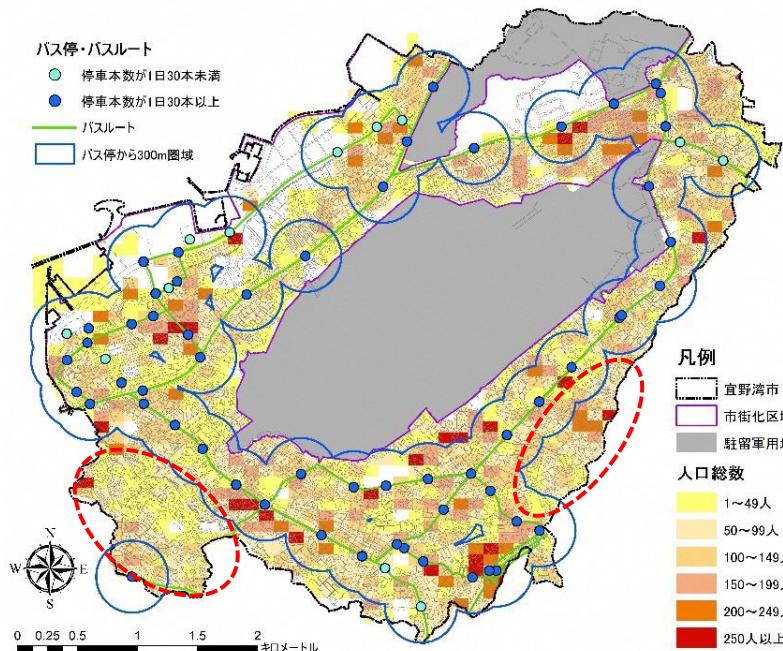
▲宜野湾市における買物ODとバスルート
資料：沖縄県「沖縄本島公共交通基礎調査（R2）」

●東西方向をつなぐ公共交通の検討

2-2. 宜野湾市の公共交通を取り巻く課題

課題③

高齢者人口の増加と公共交通空白地域
及び公共交通が利用しにくい地域の存在



▲路線バスサービス状況
(資料:宜野湾市都市計画マスタープラン (R3.12改定))

●多様な移動手段の確保

課題④

西普天間住宅地区の開発に伴う交通量
増加



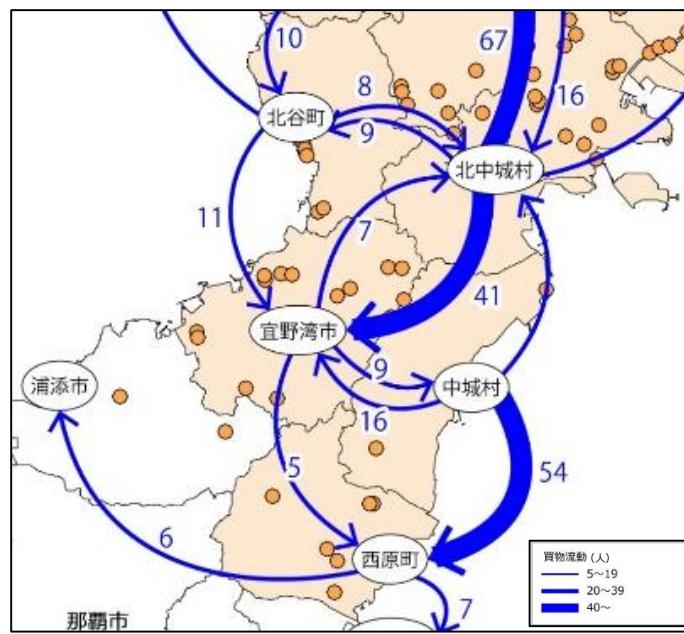
▲西普天間住宅地区に関連する路線バスの再構築イメージ

●西普天間住宅地区の新たな移動需要に対応する公共交通ネットワークの再構築

2-2. 宜野湾市の公共交通を取り巻く課題

課題⑤

周辺市町村への流出移動需要、周辺市町村からの流入需要と公共交通ネットワークの未接続



▲中部圏域における広域移動 買物 (R2市民アンケート)

資料：沖縄県「沖縄本島公共交通基礎調査 (R2)

●周辺市町村と連携した施策の検討

課題⑥

新型コロナの影響による、交通事業者の経営悪化、路線バス・タクシーにおける慢性的な人員不足

●路線バス・タクシーなど既存公共交通の利用促進

課題⑦

観光客・ビジネス客等の来訪者の移動への対応

世代別 運転免許の有無 レンタカー利用意向		Z世代 (18~25歳)	ミレニアル世代 (26~39歳)	旅行牽引 世代 (18~39歳)	40歳以上	合計 (%)
免 許 あ り	抵抗なし	28.1	43.4	37.7	53.8	44.1
	少し抵抗あり	15.9	21.2	19.3	15.8	17.9
免 許 な し	自信がない	17.4	22.0	20.3	20.1	20.2
	同行者が運転	7.0	3.7	4.9	4.4	4.7
免 許 な し		利用しない	31.6	9.7	17.9	5.8
						13.1

▲県外観光客の世代別運転免許の有無、レンタカー利用意向

(資料：沖縄タイムス「沖縄振興開発金融公庫 R3年度観光客調査」)

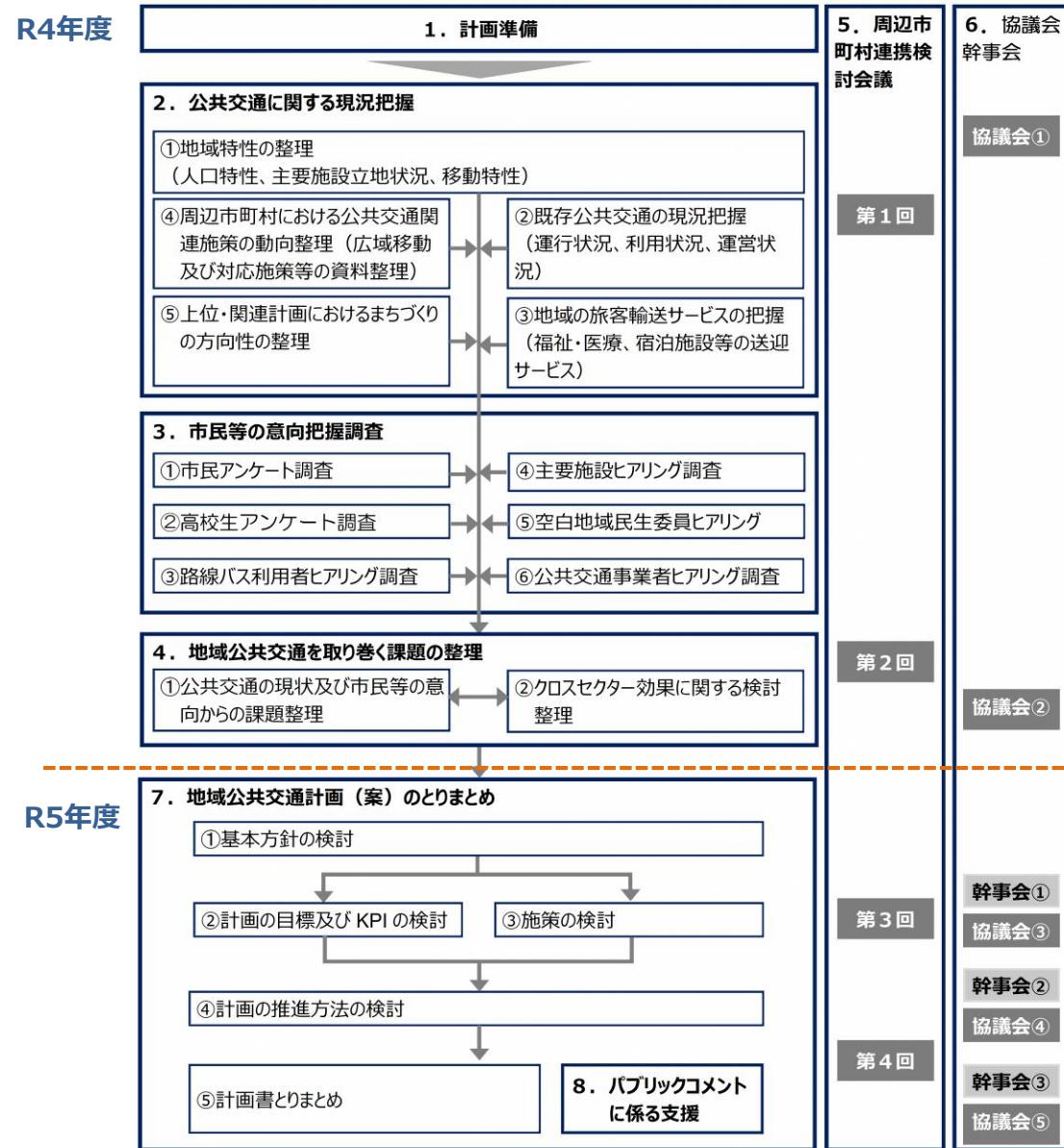
●本市と主要観光拠点をつなぐ交通ネットワーク構築

3. 調査・検討の進め方

3-1. 検討フロー

宜野湾市地域公共交通計画は
2か年の調査・検討を経て、策定します。

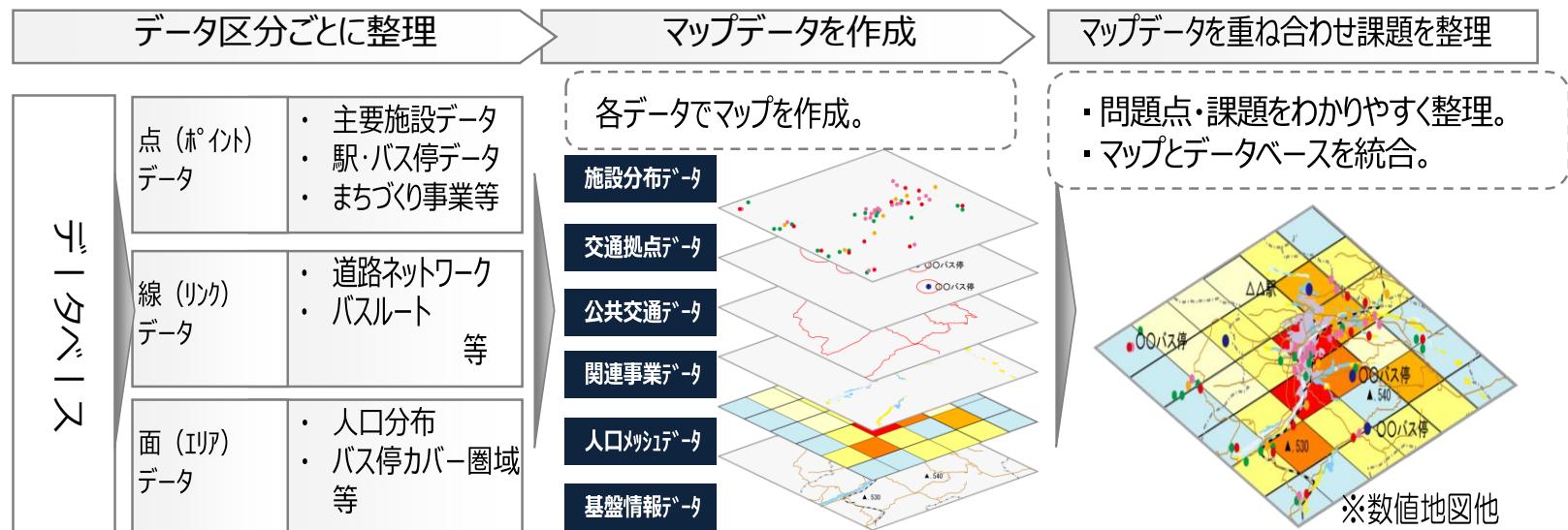
- **R4年度**は、公共交通に関する現況の把握、市民等の意向把握を、統計調査データや各種調査結果から行い、本市における**地域公共交通を取り巻く課題**を整理します。
- **R5年度**は、地域公共交通を取り巻く課題を解決していくための基本方針（地域公共交通の基本方針）、本計画の目標と施策、実施体制等を検討し、**宜野湾市地域公共交通計画**をとりまとめます。
- 調査・検討にあたっては、**宜野湾市地域公共交通推進協議会（法定協議会）**において関係者と協議を重ねながら進めます。
- また、**周辺市町村連携検討会議**を開催し、周辺市町村と課題や施策等を共有・意見交換しながら検討を進めます。



3-2. 公共交通に関する現況整理

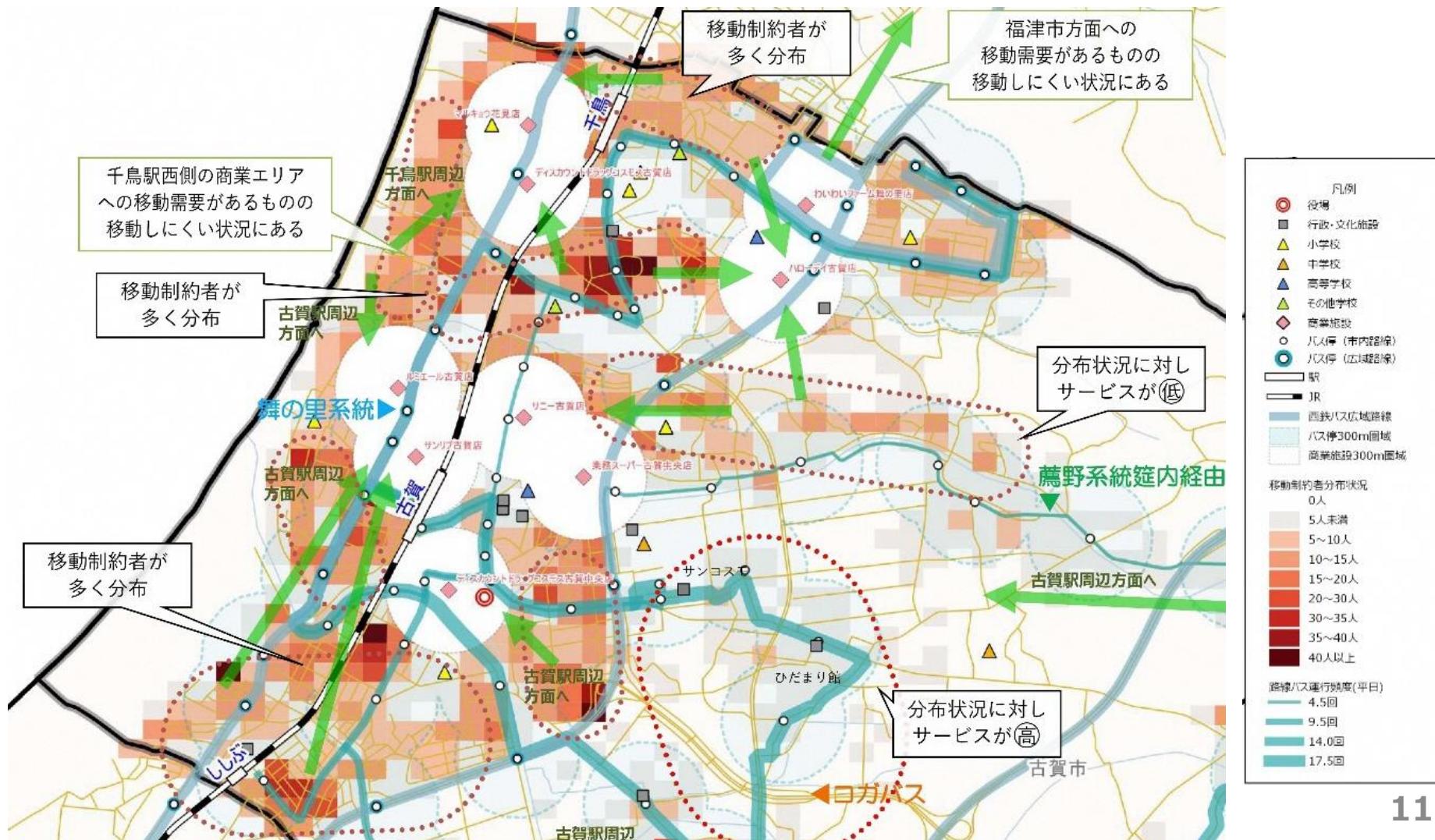
1) 地域特性の把握

整理項目	概要
人口特性	人口推移、人口分布、年齢別人口、将来人口
地形・土地利用	標高、土地利用状況、都市計画区域・用途地域、道路ネットワーク
施設立地状況	商業施設、医療施設、観光施設、教育施設、その他公共施設
移動特性	通勤特性、通学特性、交通手段分担状況、免許保有状況
観光動向	観光入込客数、観光形態、消費額等
医療・福祉	要介護認定者数、障害者手帳所持者数、生活補助受給世帯数、老人クラブ会員数
環境	運輸部門の二酸化炭素排出量、世界・国、交通産業界の動向



マップデータの重ね合わせによる課題分析の例：福岡県古賀市

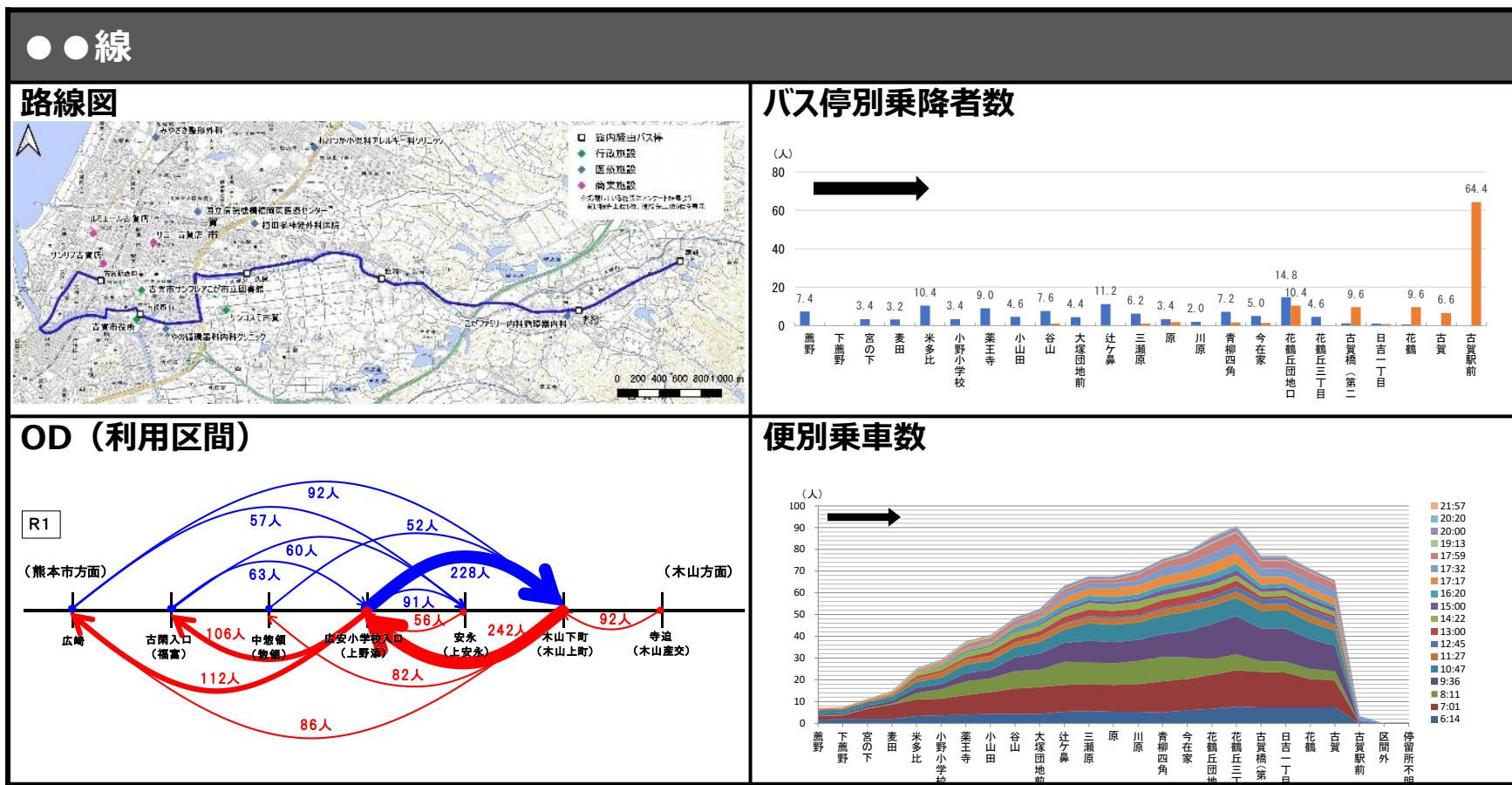
高齢者等（移動制約者）の居住分布と、公共交通サービス（路線・バス停・運行頻度）、外出先となる商業施設の徒歩圏とを重ね合わせて、公共交通でも徒歩でも外出できない市民を抽出



2) 既存公共交通の現況把握

整理項目	概要
運行状況	運行ルート・バス停位置、便数・ダイヤ、運賃設定、利用環境、交通結節点の接続状況
利用状況	利用者属性、利用者数、利用区間
運営状況	運行経費、運賃収入、収支率、車両数、乗務員数

路線利用状況カルテ（イメージ）



2) 既存公共交通の現況把握

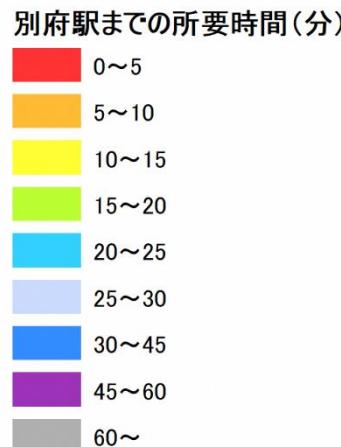
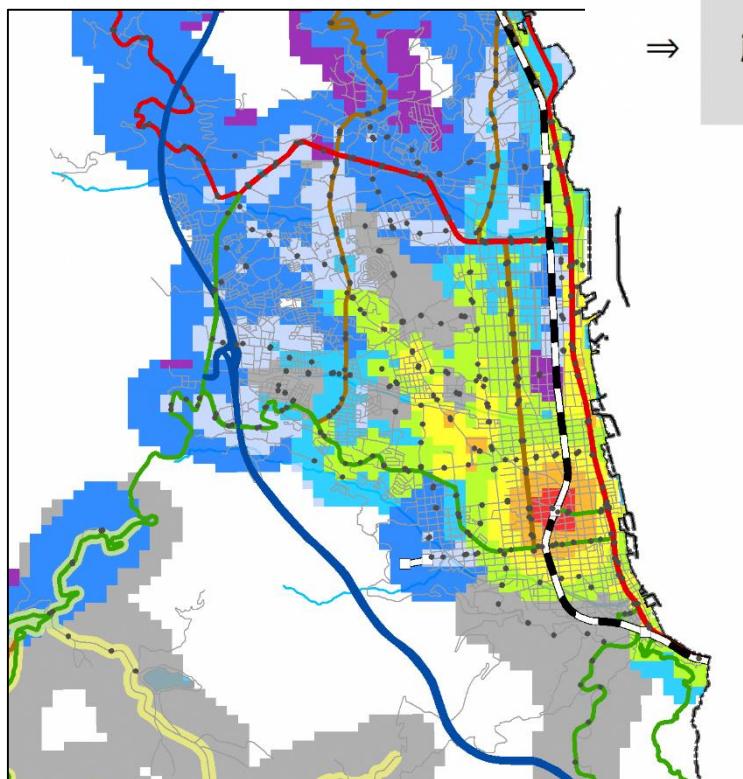
各地域の公共交通の利便性は、国土技術総合研究所考案のアクセシビリティ指標を用いて評価

※評価は、「東西方向の移動」と「西普天間住宅地区への移動」に焦点を当てます。東西方向の移動の評価地点として“大謝名交差点”、西普天間住宅地区への移動の評価地点として“普天間交差点”を想定する。

アクセシビリティ評価

徒歩または公共交通利用による都市生活の利便性を計量するもの

$$\Rightarrow \text{徒歩の所要時間(分)} + \text{公共交通の移動時間(分)} + \text{公共交通の運行頻度の多少を反映した所要時間の期待値(分)}$$



【別府市内の別府駅までのアクセシビリティ評価結果】

3) 地域の旅客輸送サービスの把握

市民等の移動を担う輸送サービスとして、病院や学校等が実施している送迎サービス、地域が共助として取り組んでいる輸送サービスについて、運行概要等を整理



◀ 地域旅客輸送サービスのイメージ
(資料：国土交通省「地域公共交通計画等の作成と運用の手引き」)

4) 上位・関連計画におけるまちづくりの方向性の整理

【上位・関連計画】

- 第4次宜野湾市総合計画
- 宜野湾市人口ビジョン
- 宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 宜野湾市都市計画マスター プラン
- 宜野湾市都市交通マスター プラン・都市交通戦略
- 宜野湾市子ども・子育て支援事業計画
- 第4次宜野湾市地域福祉計画
- 健康ぎのわん21（第2次）
- 第8期宜野湾市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- 宜野湾市地球温暖化対策実行計画
- 第二次宜野湾市産業振興計画

整理の視点 1

各計画の実現に向けて
公共交通に求められる役割



整理の視点 2

各計画に位置付けられた
公共交通に関連する施策

3-3. 市民等の意向把握調査

1) 市民アンケート調査

項目	概要	
目的	普段の生活における移動に関する困りごとや、現状の公共交通サービスの利用実態や改善要望などを把握	
対象	居住する18歳以上85歳以下の市民を無作為抽出	
調査方法	配布（ポスティング）/回収（郵送）	
配布票数	3,500世帯（各世帯に調査票は2部配布）	
調査項目	項目	分析イメージ
	◆個人属性項目（性別・年齢・居住地・運転環境・ITリテラシー（スマホを活用した施策の有用性））	
	◆日常生活、暮らしの行動パターンの把握 ・通勤通学にはどこに行っているか。どのような交通手段を利用しているか ・買物や通院はどこに行っているか。交通手段、利用頻度	
	→現状の行動特性・OD →交通手段、頻度の把握	
	◆日常生活、暮らしていく上で移動の困りごとの把握等 ・買物や通院で移動する上での困りごと	
	→公共交通施策を検討する上で のポイントの整理	
	◆公共交通の利用状況、公共交通の取り組みについての考え方 ・路線バスの利用頻度、外出目的 ・路線バスの利用機会を増やすために希望するサービス ・公共交通に対する行政、市民の今後の取り組みについての考え方 ・公共交通に対する満足度と今後のあり方についての考え方	
	→行政の取り組みの方向性、優先度 →利用促進の方向性、優先度 →公共交通サービスの充実の方向性、優先度	
調査時期	令和4年10月	

2) 路線バス利用者ヒアリング調査

項目	概要
目的	路線バス利用者のサービスに対する満足度や改善要望の把握
対象	普天間、宇地泊、長田、伊佐、中部商業高校前、真栄原 計6箇所 ※上下線で実施
調査方法	対面による聞き取り形式（5分程度を想定）
調査項目	・利用状況：利用区間や外出目的 ・路線バスを選択している理由、バスのサービスや利用環境に対する評価
調査時期	令和4年10月 平日1日 16:00～20:00（4時間調査） ※通勤・通学利用者は、あわただしい朝の時間では調査協力を得にくいため、帰宅時に実施する

3) 主要施設ヒアリング調査

項目	概要
目的	教育機関や観光関連機関の公共交通に対する課題やニーズの把握
対象	沖縄国際大学、琉球大学（医学部）、普天間高校、宜野湾高校、中部商業高校、沖縄カトリック高校、コンベンションセンター 計7箇所
調査方法	訪問による聞き取り形式（1事業者あたり1時間程度）
調査項目	・公共交通を利用している人の特性 ・施設側から公共交通に対する要望
調査時期	令和4年10月

4) 交通事業者ヒアリング調査

項目	概要
目的	運行状況、事業の中で散見する公共交通の問題点・課題の把握
対象	バス会社：那覇バス株式会社、株式会社琉球バス交通、沖縄バス株式会社、東陽バス株式会社 計4社 タクシー会社：市内タクシー会社
調査方法	直接訪問による聞き取り方式（1事業者あたり1時間～1時間30分程度）
調査項目	・交通事業者が把握している利用者からの不満や改善要望 ・交通事業者からみた現状の問題点・課題・改善方策
調査時期	令和4年10月

5) 空白地域民生委員ヒアリング調査

項目	概要
目的	地域公共交通空白地域での移動の困りごとや公共交通へのニーズの把握
対象	地域公共交通空白地域のうち、2地域程度を対象に実施 調査対象地域の自治会長及び民生委員
調査方法	対面によるグループヒアリング（1時間程度を想定）
調査項目	・高齢者等の移動特性、移動の困りごと ・公共交通に対する要望
調査時期	令和4年10月

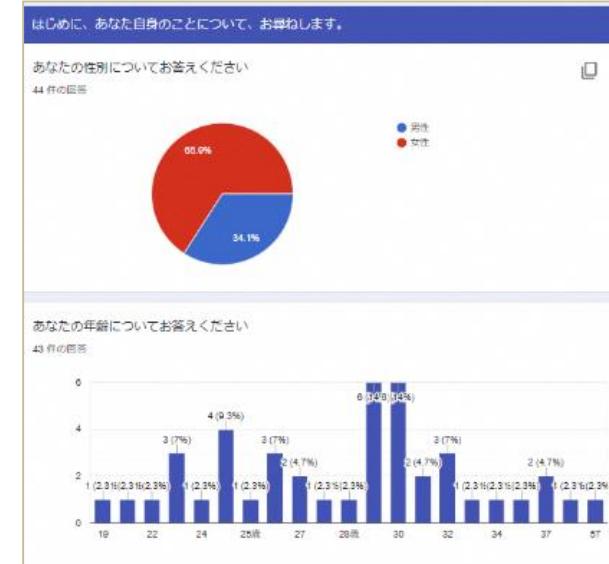
6) 高校生アンケート調査

項目	概要
目的	高校生の通学等における公共交通の利用状況、利用しない理由、改善要望等を把握し、高校生への利用促進を図る上での基礎データを収集する
対象	普天間高校、宜野湾高校、中部商業高校、沖縄カトリック高校 計4校
調査方法	Web調査票によるアンケート調査
調査項目	・通学や部活、私用での公共交通の利用状況 ・公共交通を利用しない理由 ・公共交通に対する不満点、改善要望
調査時期	令和4年10月

市内の高校と協力して、生徒を対象にアンケート調査を実施



web調査票を作成し、集計・分析作業を効率的に実施



■市民等の意向把握調査 調査位置図

1) 市民アンケート

- ▶ 調査対象：市内全域 3500世帯

2) 路線バス利用者ヒアリング調査

- ▶ 調査対象：
普天間、宇地泊、長田、伊佐、中部
商業高校前、真栄原

3) 主要施設ヒアリング調査

- ▶ 調査対象：
沖縄国際大学、琉球大学（医学部）、普天間高校、宜野湾高校、
中部商業高校、沖縄カトリック高
校、コンベンションセンター

4) 交通事業者ヒアリング調査

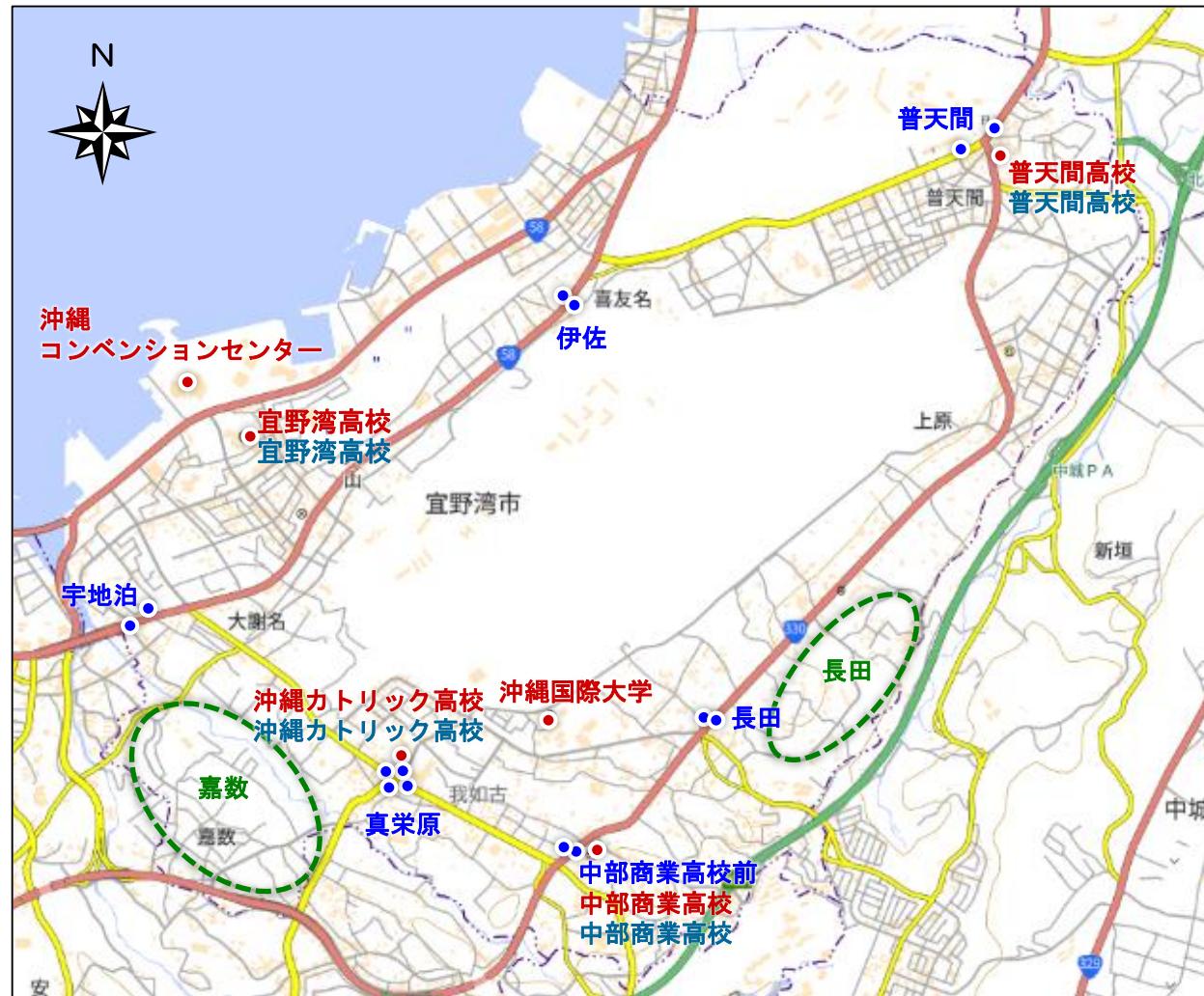
- ▶ 調査対象：
バス会社、タクシー会社

5) 民生委員ヒアリング調査

- ▶ 調査対象：
地域公共交通不便地域のうち、2 地域

6) 高校生アンケート調査

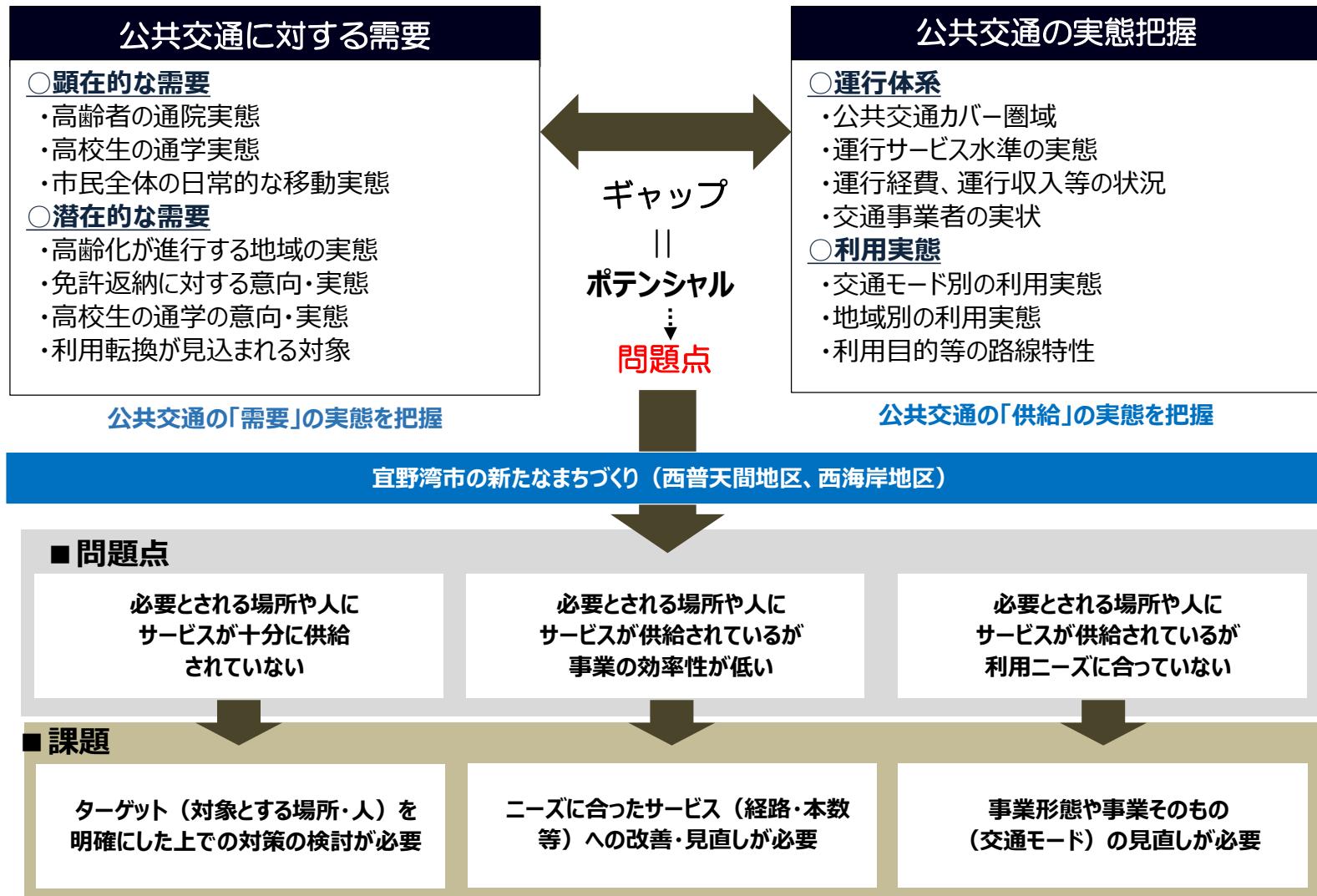
- ▶ 調査対象：
普天間高校、宜野湾高校、中部商業
高校、沖縄カトリック高校



地図上に表記していない調査対象：琉球大学（医学部）、バス会社、タクシー会社

3-4. 地域公共交通を取り巻く問題点・課題

1) 公共交通の現状及び市民等の意向からの課題整理

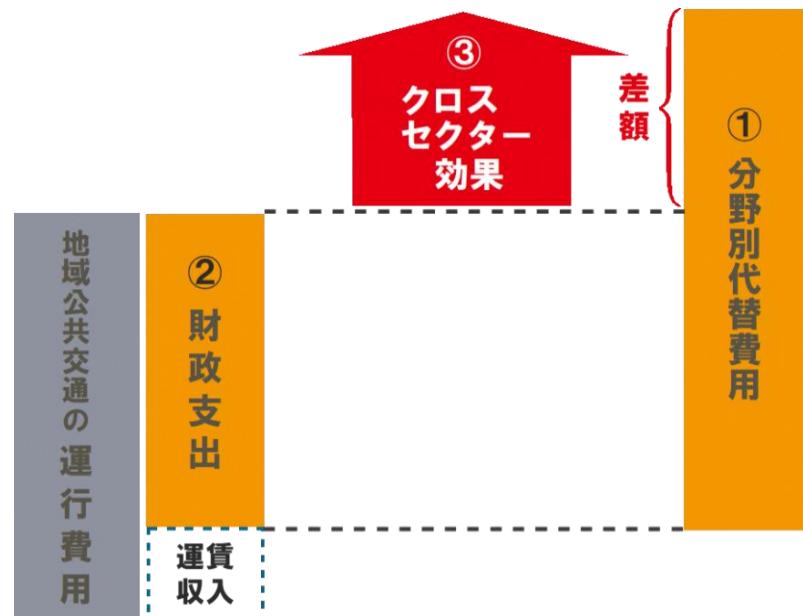


▲課題の整理イメージ

2) クロスセクター効果に関する検討整理

- ・クロスセクター効果とは、交通サービスに係る経費を、教育や福祉、医療、観光、地域活性化など、まちづくりの各分野において発生する効用として価値換算する考え方です。
- ・本年度は、課題分析の補足として実施することとし、具体的には、想定される施策について、効果が得られる分野やその内容を検討、整理することを想定します。

公共交通が貢献するまちづくり分野イメージ



資料：近畿運輸局資料H30.3

3-5. 周辺市町村連携検討会議

- ・宜野湾市民は、日常的に市外へ移動しており、円滑な交通体系を構築していくためには、周辺市町村との連携が欠かせません。
- ・そのため、周辺市町村連携検討会議を開催し、各市町村の課題認識や公共交通関連の取り組み状況等を共有するとともに、本市で進める各種施策等についての協議・調整を行います。
- ・対象：浦添市、北谷町、北中城村、中城村、西原町

▼周辺市町村連携検討会議の開催時期・協議（案）

協議会回数	開催予定	協議内容案
第1回	R4.9.29	<ul style="list-style-type: none">・調査の進め方（調査内容についての要望の確認）・各市町村の取組み状況、広域移動に関する課題認識、基本的な方向性について意見交換
アンケート調査 (メール)	R4.10月	<p>【調査項目】</p> <ul style="list-style-type: none">・各市町村の公共交通施策の計画や現在の進捗状況の詳細把握・宜野湾市への調整事項の要望把握
第2回	R5.2月	<ul style="list-style-type: none">・宜野湾市の課題、広域移動に関する課題・対応方針についての確認（各市町村への協力事項に対する了解を得る）
第3回	R5.7月	<ul style="list-style-type: none">・施策（内容、スケジュール、役割分担）についての確認（各市町村への協力事項に対する了解を得る）
第4回	R5.11月	<ul style="list-style-type: none">・施策（内容、スケジュール、役割分担）についての確認（各市町村への協力事項に対する了解を得る）

3-6. 宜野湾市地域公共交通推進協議会

▼地域公共交通推進協議会の開催時期・協議（案）

	開催予定	協議内容案
第1回	R4.4.21~28 (書面会議)	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・宜野湾市地域公共交通推進協議会規約の制定について・会長・副会長の選任について
第2回	R4.9.28 (本日)	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・宜野湾市地域公共交通推進協議会規約(案)の改正及び監査委員の指名について・令和4年度予算（案）について・地域公共交通計画策定に向けた調査・検討の進め方について
第3回	R5.2月	<p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・地域特性、既存公共交通の現況整理結果、市民等の意向把握調査結果 <p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・地域公共交通を取り巻く問題点・課題について・宜野湾市の地域公共交通の基本方針（たたき台）について
第4回	R5.8月	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・計画の目標・数値指標について・施策内容・スケジュール・実施主体・役割分担について・計画の推進方法について
第5回	R5.11月	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・地域公共交通計画(素案)について
第6回	R6.2月	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・パブリックコメントの結果及び対応・地域公共交通計画(案)について

參考資料

西普天間住宅地区土地区画整理事業

事業概要

施 行 者 ……宜野湾市
施 行 面 積 ……50.7ha
都 市 計 画 決 定 ……平成 31 年 1 月 4 日
事 業 計 画 ……平成 31 年 3 月 8 日
施 行 期 間 ……平成 30 年度～令和 9 年度
施 補 助 期 間 ……平成 31 年度～令和 7 年度
総 事 業 費 ……11,340,000 千円
国 費 …… 5,211,900 千円
計 画 人 口 ……1,155 人
減 歩 率 ……合算 38.00%
公 共 用 地 率 ……從後 39.64%
建 物 移 転 数 ……0 戸

<公共施設の整備>

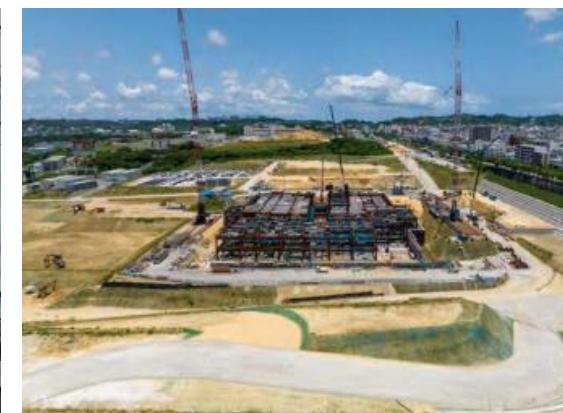
都市計画道路 ……2 路線
幅員 16.0m～20.0m
延長 2,236m
区 画 道 路 ……幅員 6.0m～10.0m
延長 4,925m
特 殊 道 路 ……幅員 6m
延長 1,340m
通 路 ……幅員 1.2m
延長 67m
公 緑 園 ……7箇所 79,549 m²
地 ……2 箇所 35,922 m²

<他関連事業>

公共下水道整備事業



【設計図】



※事業計画書(第2回変更) 令和3年3月変更

西普天間住宅地区土地区画整理事業

沖縄健康医療拠点形成まちづくりの主要な施策・事業（案）

~取組み中のまちづくり計画~

(道路の無電柱化・高質化、景観重要公共施設の指定、モデル街区形成 等)

イメージ図

琉大との連携
琉大と連携した歩行空間のデザイン

道路高質化（歩道デザイン）

- 歩くことが楽しくなるよう
な歩道空間の創出
- ベンチや遮熱舗装、
街路樹による日よけ・雨よけ
- 無電柱化

道路の無電柱化・高質化、景観重要公共施設の指定、モデル街区形成 等

モデル街区（琉大ゲート前）

1階部分にはぎわいの形成に寄与する店舗等を配置【地区計画/景観計画】

壁面後退（セットバック）と壁面後退部分の有効活用【地区計画/景観計画】

駐車場は建物裏側に配置【景観計画】

「みんなでまちをつくる」意識をもった土地利用の推進

文化財・湧水等の歴史的公園整備※1

- 文化財
- 湧水保全・活用
- 散策路設置

モードル街区（県道沿道）

大規模保留地の利活用(1ha)※1

モードル街区（県道沿道）

橋梁整備 L=100m
イシジャー緑地に囲まれた橋梁と西海岸眺望

関係施設

駐車場・福利厚生などの
関係施設の設置
・琉大駐車場の地域利用等

地区全体（イメージ）

- 地区全体の良好な景観形成
眺望の保全・統一感ある街並み、緑豊かな街並みづくり

【凡例】

施行地区界
幹線道路
区画道路
特殊道路
通路
公園
緑地
墓地

ウォーカブルな動線

~ソフト事業の取組み~

- 宜野湾市と琉球大学が市民の健康増進や
まちづくりなどに関する連携体制の構築
- 上記を踏まえた当該地域における企業誘致や
観光に関する取り組みの推進
- 周辺地域と連動したにぎわいの創出
- 防災、救急、医療に関連する琉球大学病院との
連携
- 琉球大学駐車場の地域利用等
- 新型コロナウイルス感染症などに関する琉球
大学病院との連携（助言など）

~※1 取り組み予定のまちづくり計画~

(大規模保留地の産業利用誘導、まち・公園の周遊性、その他各種取り組み 等)

イメージ写真

保留地における健康・医療に
資する産業利用誘導

地区内を周遊できる歩道
(スージグワー)の設置

公園内の多自然・文化財を周
遊できる散策路整備

その他：琉大と連携した健康器具設置、防災まちづくり（無電柱化、防災公園等）等

※本資料の内容は、地権者及び関係機関等との調整により、変更になることがあります。

出典：第四次宜野湾市総合計画後期基本計画（令和2年度策定）

普天間飛行場周辺まちづくり事業

企画部企画政策課

普天間飛行場周辺まちづくり事業

①事業目的及び概要

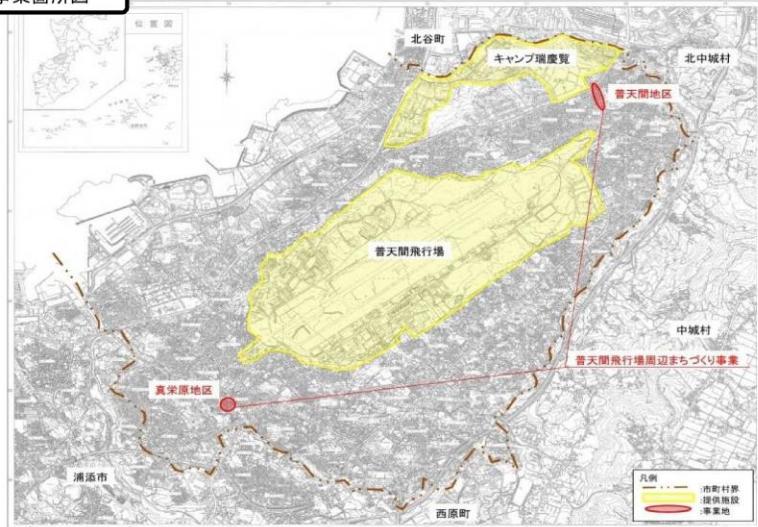
本事業は普天間飛行場の立地を前提とし、米軍人・軍属とその家族が基地内外に居住している現状を活かし、各種交流や相互理解、地域活性化に貢献できるまちづくりを構築することを目的とする。

本市の2箇所の商業地域である普天間地区・真栄原地区を市道宜野湾11号で連携させることにより、普天満宮の門前町として継承されてきた歴史文化を「精神文化」、住民が日々の生活の中で育んできた資源を「生活文化」とし、両地区に交流拠点の形成を図る。

普天間地区においては主に各種講座や沖縄平和祈念像原型を活用した平和学習を行う交流施設、真栄原地区においては子育てや健康増進機能等を備えた交流施設の整備を予定している。

事業期間：平成28年度～令和8年度

②事業箇所図



③普天間地区イメージ



門前広場(イメージパース)



交流施設(R2実施設計時)



平和祈念像原型



④真栄原地区イメージ

